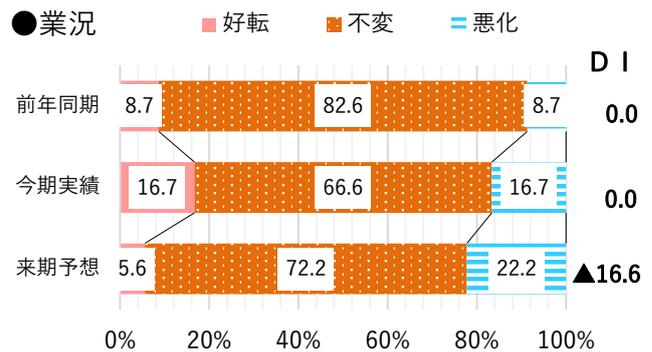


建設業

業況、売上、採算

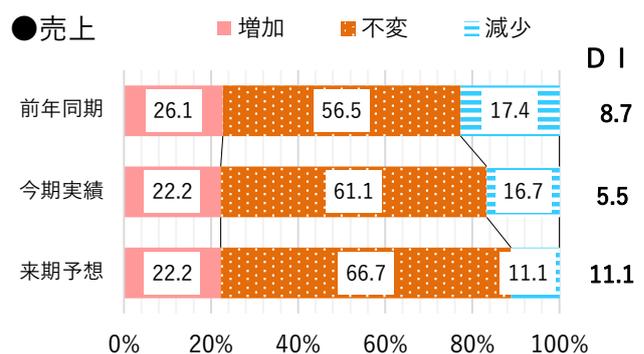
今期（2025.4～6）の業況判断DIは0.0で、前年同期（2024.4～6）と比べ変化はありませんでした。

来期（2025.7～9）の業況DIは今期（2025.4～6）と比べ▲16.6ポイント低下すると予想しています。



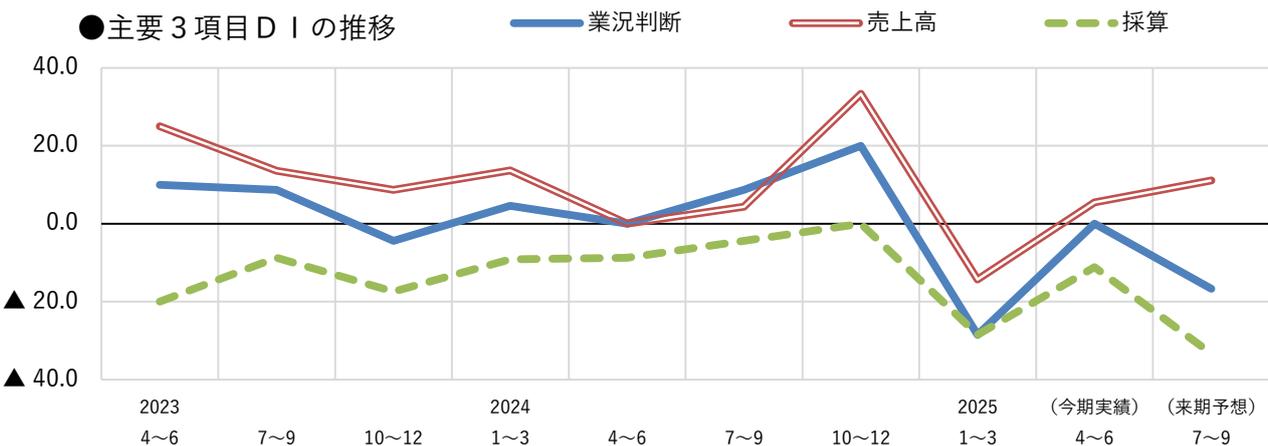
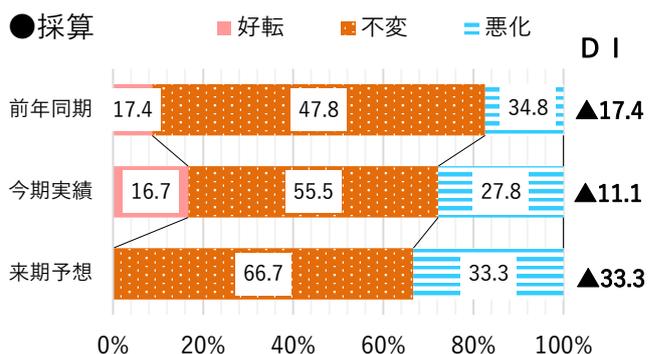
今期の売上高DIは5.5で、前年同期と比べ3.2ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ5.6ポイント上昇すると予想しています。



今期の採算DIは▲11.1で、前年同期と比べ6.3ポイント上昇しました。

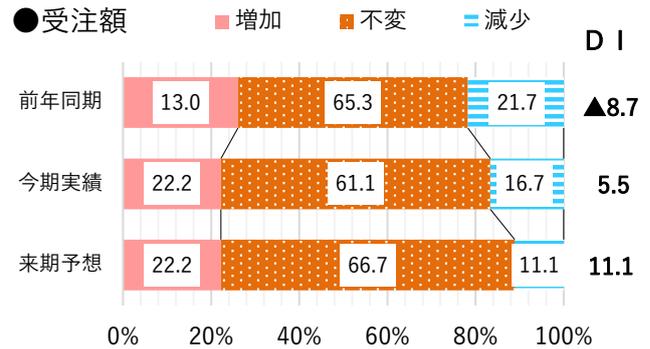
来期の採算DIは今期と比べ22.2ポイント低下すると予想しています。



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

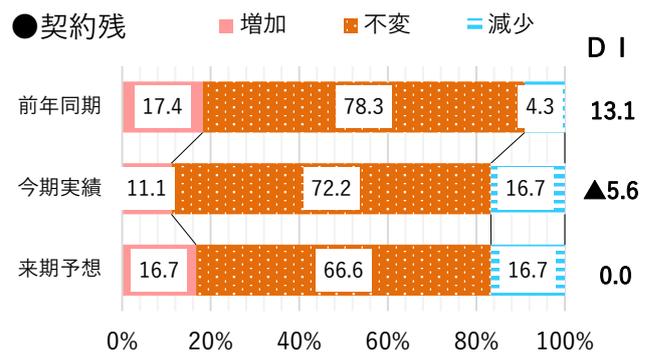
今期の受注額DIは5.5で、前年同期と比べ14.2ポイント上昇しました。

来期の受注額DIは今期と比べ5.6ポイント上昇すると予想しています。



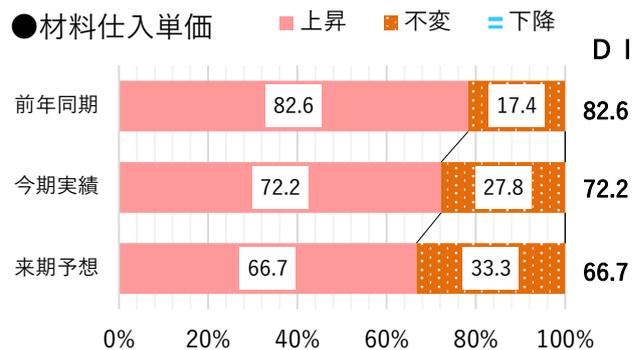
今期の契約残DIは▲5.6で、前年同期と比べ18.7ポイント低下しました。

来期の契約残DIは今期と比べ5.6ポイント上昇すると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは72.2で、前年同期と比べ10.4ポイント低下しました。

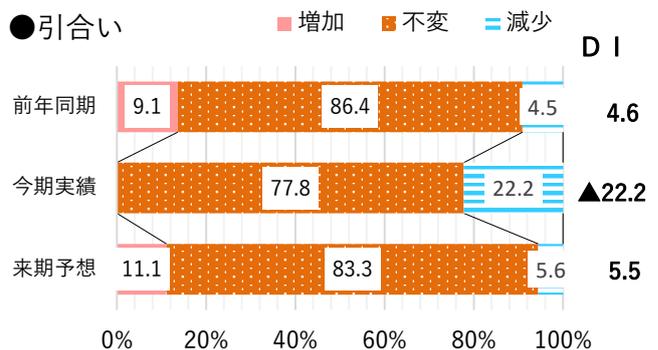
来期の材料仕入単価DIは今期と比べ5.5ポイント低下すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲22.2で、前年同期と比べ26.8ポイント低下しました。

来期の引合いDIは今期と比べ27.7ポイント上昇すると予想しています。



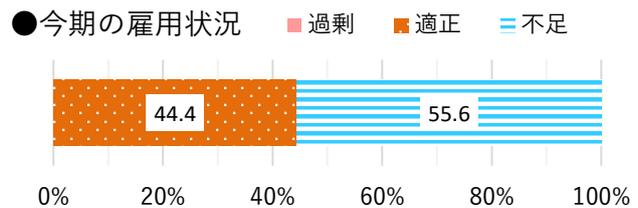
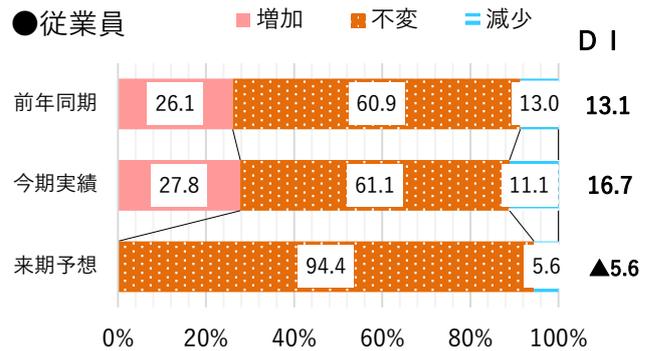
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは16.7で、前年同期と比べ3.6ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ22.3ポイント低下すると予想しています。

今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は44.4%、不足していると回答した企業の割合は55.6%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、33.3%を占めました。

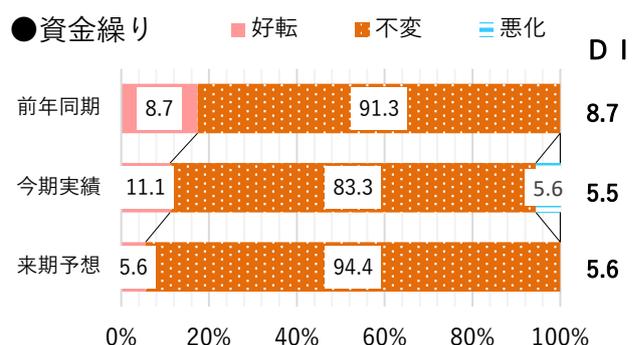


今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

資金繰り、設備投資

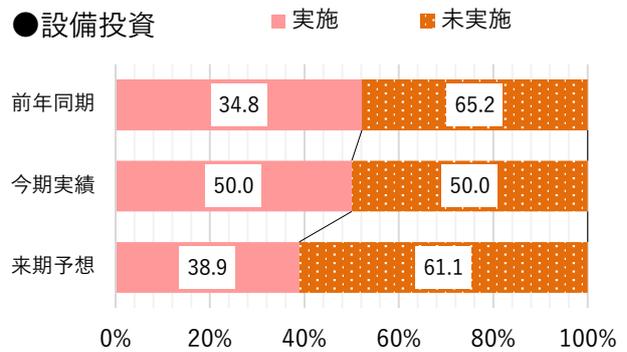
今期の資金繰りDIは5.5で、前年同期と比べ3.2ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ0.1ポイント上昇すると予想しています。



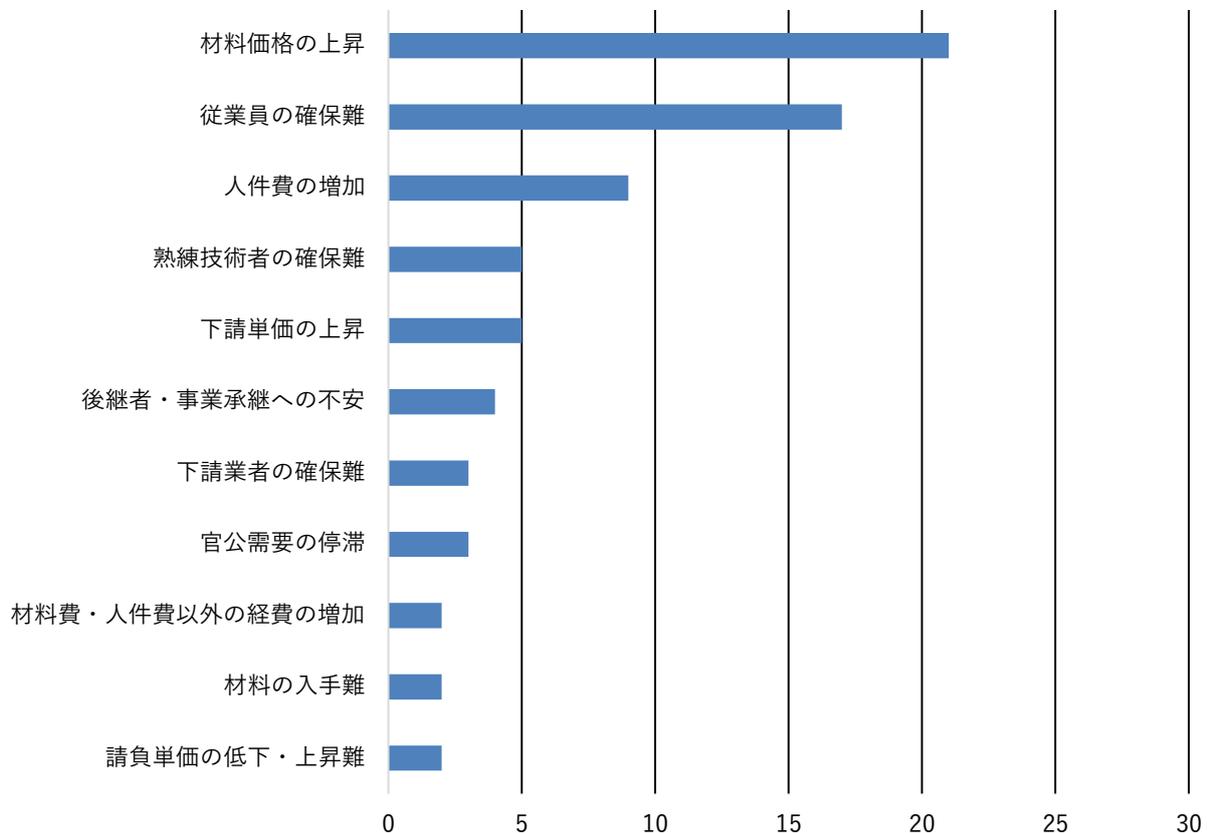
今期の設備投資は50.0%が実施と回答し、前年同期と比べ15.2%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「建設機械」、3位が「OA機器」の順です。

来期は38.9%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 売上額が減少し、受注工事状況が悪化し、仕入単価が上昇した。(一般土木工事業)
- 仕入価格が上昇したので、採算が悪化した。(一般土木工事業)
- 工事の受注状況が好転した。(一般土木工事業)
- 人材不足が課題である。(一般土木工事業)

- 売上額が減少し、受注工事状況が悪化し、仕入単価上昇が上昇した。（職別工事業）
- 人材確保のため、人件費が増加し、採算が悪化した。（造園業）
- 人材不足が続いており、受注機会の損失が多い。（一般管工事業）
- 請負工事量が多く消化できない状況だが業況は好転してる（電気工事業）

[来期の業況について]

- 来期も受注状況が良ければ、採算も変化ないと予測する。（一般土木工事業）
- 仕入価格が上昇し、採算が悪化すると予測する。（一般土木工事業）
- 受注工事が減少すると予測する。（一般土木工事業）
- 人材不足が課題である。（一般土木工事業）
- 受注工事が減少し、採算は悪化する予測する。（職別工事業）
- 現時点では見通しが立たないので不変とした。（造園業）
- 人材不足は今後も続く予想する。（一般管工事業）
- 請負工事量が多く消化できない状況だが、業況は好転している。（電気工事業）